

# CSRは「三方よし」で FC岐阜オフィシャルスポンサー 本業のARも活用

「子どもと一緒に、あこがれの選手と撮影できようれしい」  
岐阜県の長良川競技場をホームにしているサッ



① カー・FC岐阜を応援に訪れたファンから、そんな声が聞かれた。ただ、実際に選手と並んで撮影したのではない。  
選手のユニフォーム姿などのAR（拡張現実）データを観客がスマホや

タブレットにダウンロードし、画面を通して仮想の選手モデルを現実空間に投影、子どもを撮影すると、選手とのツーショットになるのだ（写真①）。

「Jリーグ公式試合で撮った写真・動画のSNS投稿が昨シーズンから可能になり、FC岐阜は昨シーズン、「スタジアムAR」を行った。その企画とデータ作成に協力したのが、杉山設計事務所（名古屋市長、杉山宣央社長）。スポーツの発展や地域活性化の力になろうと、2014年からFC岐阜のオフィシャルスポンサーになっている。

AR（拡張現実）といえは、MR（複合現実）、VR（仮想現実）とともに、現実と仮想の世界を融合する画像処理技術。このシリーズで伝えてきたように、橋梁設計のDX時代を先駆ける同社の本領を、社会貢献の場で活用している。



② また、杉山社長は8月、中京大学附属中京高校が授業外の学習機会として行っている「学びのプラットフォームセミナー」で、職業講話の講師を務めた（写真②）。

## 世界の子供達へ

③ 絵本を翻訳 古着販売でワクチン  
実社会で働く人の考え方を知り、進路を考える手掛かりにするのが目的。杉山社長は「学生時代から現在の仕事に就くまでの経緯を振り返り、今の思いを話した。生徒の希望ある未来に少しでもプラスになれば幸い」という。



④ の協力（写真③）、古着販売で途上国の子供たちにワクチンを届ける運動に参加……。企業としての目配りはもちろん、社内にも及ぶ。前回紹介した様々な人材育成策は、すっかり定着してきた。さらに、社員健康増進（写真④）、生き生きと働ける職場環境づくりにも力を入れ、健康経営優良法人（経済産業省と日本健康会議）、ワーク・ライフ・バランス推進企業（名古屋市長）などにそれぞれ認定されている。オフィスでは、写真④のような場面も。



④ 新技術導入によるDX時代の先駆は、「お客様のために買い手よし」。幅広い社外活動は、「地域社会のために（世間よし）」。そして、社員を大事にするのは「従業員のために（売り手よし）」。

CSR（企業の社会的責任）を「三方よし」でとらえ、同社の挑戦はさらに続く。今年で創業15周年を迎えたばかりだから、このシリーズ（写真4点は同事務所提供、このシリーズ）